



大谷場東

教育目標

かしこく なかよく たくましく かがやく子の育成

- ◆発行：さいたま市立大谷場東小学校
- ◆住所：336-0016 さいたま市南区大谷場2丁目13番54号
- ◆電話：048-882-4618：FAX：048-811-1327
- ◆URL：https://oyabahigashi-e.saitama-cty.ed.jp/index.html

自分から進んで

校長 船田 敦史

令和5年度が始まり、1か月が経ちました。大人も子どもも新しい環境に慣れてくるとともに、疲れが出始める時期でもあります。ぜひご家庭でもお子様の体調管理をお願いいたします。

4月10日、改修の終わった校庭に全校児童が一堂に会する形で始業式を行いました。カメラを通してではなく、子どもたちに直接話すことができる喜びとともに、集団行動等コロナ禍で学ぶ機会が少なかったことがたくさんあることを感じました。校長講話では、子どもたちに「自分から進んで取り組める人になってほしい」という話をしました。あいさつを例に挙げ、登校の見守りをしてくださっている保護者の方や交通指導員さん、中学校の先生、校内ですれ違うお客様等、身の回りの方に自分から進んであいさつができるようになってほしいといったことを伝えました。また、掃除についても、面倒だからやらないということではなく、やらなければならないことは、進んでやりきるという姿勢を身につけてほしいと伝えました。それから1か月。毎日のあいさつや掃除に一生懸命に取り組んでくれる子が増えていると感じます。

主体的に取り組むためには、活動への意欲や、動き始める前の「考える」過程が重要と考えます。行動の意味を考えたり、動いた後の結果を予想したりとあれこれ考えることで、取り組み方が変わってきます。そして、取り組んだ結果を振り返り、成功と失敗を経験として、次の行動に生かすのです。「言われたからやる」、「いつもどおりやる」のとは得られる経験が違ってくるのではないのでしょうか。また、自分から進んで意欲的に取り組めば、その後に感じる喜びや悔しさも大きくなります。

子どもたちに主体性を求めると同時に、我々教職員にも子どもたちへの関わり方の使い分けが求められます。ICT機器の普及により、膨大な情報が簡単に得られる現代では、教員が教えること以上の情報を児童が瞬時に得られます。そのことを念頭に置き、「教える」、「気づかせる」、「寄り添う」、「見守る」等、学習のねらいや児童の実態に応じて関わり方を工夫する必要があります。日々の授業実践を通し、よりよい関わり方について、研究を進めてまいります。

5月には運動会があります。競技だけではなく、応援、係活動等、様々な場面で子どもたちの主体的な活躍を見ていただけるよう指導してまいります。ぜひご期待ください。